

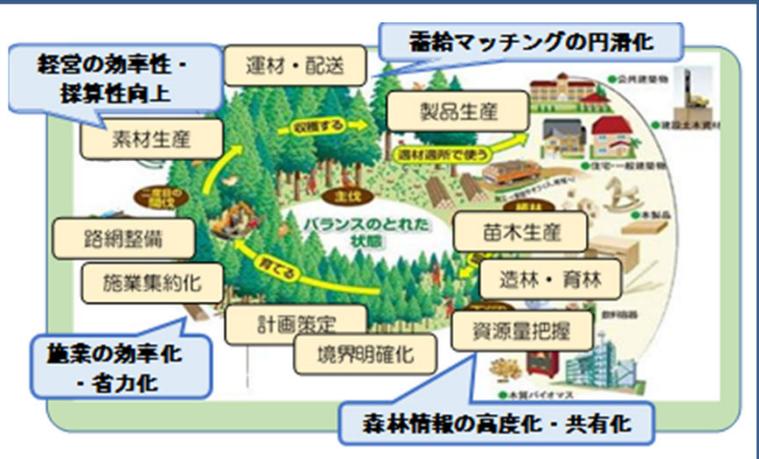
行政の窓

スマート林業の推進について

本道のカラマツ・トドマツなどの人工林は本格的な利用期を迎えており、今後の人口減少が見込まれる中で、林業においてもICT等の先進技術を活用し、素材生産性などを向上させるとともに、労働安全の確保などによる担い手の育成・確保が重要です。道では、ICT等の先進技術を活用した「スマート林業」の実現に向けた取り組みを進めています。

○スマート林業の目指す方向性

- 地理空間情報やICT等の先進技術を活用し、安全で働きやすく、効率的な森林施業や需要に応じた木材の安定供給を実現する。
- さらなる労働力不足が懸念される中で、ICT等の先進技術を活用し、生産性を向上させるとともに、林業を魅力ある職場とし、担い手の育成・確保を進める。



○今年度の取組

道内市町村や森林組合、木材関連団体、大学及び研究機関等が参画する「スマート林業EZOモデル構築協議会」が中心となって、川上から川下までの各段階において、幅広いICT等の先進的な技術の活用について検討を進めています。

ICTハーベスタ現地実演会 in 芦別

- 最も高く販売できる採材を自動で行う「バリューバックング」などの機能を備えたICTハーベスタの現地実演会を開催。製材工場など木材産業を含めた関係者が広く参加。
- 開催月日
令和元年（2019年）8月6日（火）
- 開催場所
芦別市内民有林
- 参集人数：62人



ハーベスタの実演・検討

現地検討会 in 下川

- AIによる森林資源情報の自動判別や、UAVの自動操縦技術など、最新の森林資源把握手法の検討を実施。協議会構成員及びオブザーバーが参加。
- 開催月日
令和元年（2019年）10月16日（水）～17日（木）
- 開催場所
下川町内
- 参集人数：38人



ドローン実演



室内検討

(水産林務部林務局林業木材課林業木材グループ)